

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防の任務を遂行するため、消防の資機材整備と同様に職員研修による知識・技術・資格等の取得は必要不可欠であり、常に最新の技術や知識を修得するため、計画的に人材育成に取り組むこととする。また、今後数年間における消防職員の退職者増加も勘案しながら、不断の体制強化に努める必要がある。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	消防の任務を遂行するため、必要不可欠となる知識を修得するため、計画的に職員研修を実施し、人材育成に取り組むこととする。 退職者の増加を勘案した、体制強化を継続的に進めていく必要がある。
②①に基づく取組み結果	今後数年間における消防職員の退職者増加を勘案しつつ、計画的に研修派遣者を選考し、人材育成に取り組めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防吏員	意図(対象をどうするのか)	複雑多様化する消防業務に対応するため、高度な専門的知識や技術を修得する。
②事務事業の概要	消防職員として業務遂行上必要な専門知識及び技能を習得するため、消防大学校等の各種研修所に派遣する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害件数の増加、複雑多様化する災害への対応や高度な救急処置が要求され、専門的な知識、技術を持つ職員の養成により安心して暮らせる消防体制が望まれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	消防職員36人を研修派遣し、知識と技能の向上を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	派遣計画者数/派遣者数	100	94	116	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	2,584	3,615	金額(千円)	内容	5,371		
国支出金(千円)			2,616	消防学校等負担金			
県支出金(千円)			547	技能講習等負担金			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,584	3,615			5,371		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害の増加及び複雑多様化する災害に対応するため、事業廃止はできないので計画的に継続する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	専門的な知識や技術は、外部機関をもって取得する以外に方法はなく、安心できる災害対応、救急救助体制の確立をするには必要不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		H25からの繰越		
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正		現年分		
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成27年度への繰越額(単位:千円)				

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防車両更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に合わせ、車両及び積載資機材の検討を行い、良質安価で且つ迅速的確に活動することができる資機材の導入を検討する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速且つ的確な活動ができる車両を更新整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、本市に適した車両及び資機材を決定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部及び消防署の管理する車両	意図(対象をどうするのか)	車両更新計画に基づき、車両を更新する。
②事務事業の概要	消防活動を維持するために必要な、消防車両及び車両積載品を更新整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	指揮車3台、支援車1台及び事務車1台を購入した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i 車両更新率		100	100	%	車両更新計画
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算	
事業費(千円)	32,518	36,022	金額(千円)	内容	78,049	
国支出金(千円)	16,253		35,019	備品費(車両5台)	16,255	
県支出金(千円)			845	AVM移設手数料等		
市債その他(千円)	14,000	30,000	83	重量税(車両5台)	23,900	
一般財源(千円)	2,265	6,022	75	保険料(車両5台)	37,894	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	鎌ヶ谷市消防本部車両更新計画に基づき更新しているが、消防力の整備指針改正等を踏まえ、本市の車両台数、更新計画を定期的に改正する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民の安全安心のため継続していかなければならない。また、車両、積載資機材の検討を実施することによりコスト削減を可能とした中で、職員の安全性及び救急への迅速かつ有効的な対応を考慮した車両更新を実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	指令車、指揮車2台、支援車1台及び事務車1台の購入。	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	指揮車3台、支援車1台及び事務車1台を購入した。	25,952	38,353	当初	25,952	H25からの繰越	12,339
				H25⇒26繰越	12,401		
③達成状況	完了			補正		現年分	23,683
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	くぬぎ山消防署建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	今年度中に新庁舎の建築を完了し、消防署機能を移転する。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	旧庁舎を解体し、外構工事を完成させる。
②①に基づく取り組み結果	くぬぎ山消防署新庁舎が完成し、消防署機能を移転した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	くぬぎ山消防署	意図(対象をどうするのか)	くぬぎ山消防署の建替え
②事務事業の概要	耐震性能に優れた消防署に建替えることにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害対応の活動拠点となるくぬぎ山消防署を建替えることにより、震災等災害時において迅速な対応が可能となり、消防力の強化充実へとつながる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	くぬぎ山消防署新庁舎が完成し、消防署機能を移転した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i 庁舎建替え済み率	0	0	1	施設	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算	
事業費(千円)	27,139	243,098	金額(千円)	内容	113,288	
国支出金(千円)	873		218,010	工事請負費		
県支出金(千円)	0	14,111	15,918	電話移設委託等		
市債その他(千円)	5,800	224,300	8,692	消防用備品等	86,200	
一般財源(千円)	20,466	4,687	478	賃貸借料	27,088	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害対応に支障を来すことなく、近隣住民の協力を得ながら工事を進めていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民ニーズの高い安全に暮らせる社会システムを実現するには、防災拠点となるくぬぎ山消防署の施設整備を早急実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	くぬぎ山消防署新庁舎を完成させ、消防署機能を移転する。	平成26年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	新庁舎が完成し、消防署機能を移転した。	287,748	286,744	当初	223,048	243,098	H25からの繰越	64,700
				H25⇒26繰越	64,700		現年分	178,398
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-1,004			
				平成27年度への繰越額(単位:千円)		30,214		

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防本部庁舎建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	鈴木信彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	今年度中に新庁舎の建築を完了し、消防本部機能を移転する。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	車庫棟及び外構工事を完成させる。
②①に基づく取り組み結果	消防本部新庁舎が完成し、消防本部機能を移転した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部庁舎	意図(対象をどうするのか)	消防本部庁舎の建替え
②事務事業の概要	耐震性能に優れた消防本部庁舎に建替えることにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害対応の中核を担う消防本部庁舎の建替えを行うことにより、震災等災害時において迅速な対応が可能となり、消防力の強化充実へとつながる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	消防本部新庁舎が完成し、消防本部機能を移転した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	庁舎建替え済み率	0	0	1	棟	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	145,396	603,366	金額(千円)	内容		136,747	
国支出金(千円)			544,078	工事請負費			
県支出金(千円)		14,937	31,292	電話移設委託等			
市債その他(千円)	128,600	547,400	27,953	庁舎用備品		119,400	
一般財源(千円)	16,796	41,029	43	旅費及び賃貸借		17,347	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害対応に支障を来すことなく、工事を進める必要がある。また、建替場所が住宅地に囲まれていることから、騒音や振動に対する近隣住民への配慮が必要である				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民ニーズの高い安全に暮らせる社会システムを実現するには、災害活動拠点である消防本部庁舎の施設整備を早急に実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	消防本部新庁舎を完成させ、本部機能を移転する。	平成26年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	新庁舎が完成し、本部機能を移転した。	784,373	672,863	当初	699,273	603,366	H25からの繰越	85,100
				H25⇒26繰越	85,100		現年分	518,266
③達成状況	完了			補正	-112,200			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	690			
				平成27年度への繰越額(単位:千円)	56,026			